

体験イベント&プログラム開催!

種差海岸インフォメーションセンターでは、地域の自然・文化を楽しむ体験イベントやプログラムをご用意しています。

体験イベント

地域の風土を感じながら季節限定の体験プログラムを楽しめます。

参加者募集中!

開催日時、参加料、定員など詳細情報は当センターHPにてご確認ください。



<http://taneshashi.info>

<p>(1月)</p> <p>お正月イベント</p> <p>新年冬の種差天然芝生地でのジャンボかるた大会や当センター内での楽しいゲームなど、家族皆さんで楽しめるイベントです。</p>	<p>(2~3月)</p> <p>冬のグルメプログラム</p> <p>鮫・種差・階上の匠が、冬ならではの地元の食をみんなで作っていただくプログラム。当センター内の開催です。</p>	<p>(5月)</p> <p>春の階上海岸トレッキング</p> <p>バスも利用しての地元ガイド付きの階上エリアトレッキング。食のおもてなしもあり、階上をまるごと楽しめます!</p>	<p>(6~7月)</p> <p>漁師さんと!磯遊び&ウニの殻むき体験</p> <p>種差の岩場でウニ獲り体験。地元漁師さんの指導で殻むき&実食や種差の環境や生物のことを学べる人気のプログラムです。</p>	<p>(9月)</p> <p>THE鮫!トレッキング&夕焼けクルーズ</p> <p>種差天然芝生地から蕪島までトレッキング&遊覧船で八戸港夕焼けクルーズ。鮫ならではの食のおもてなしもあります。</p>
--	---	--	--	---

ぶらっとプログラム

地域の季節ごとの自然物を生かしたハンドメイドクラフトの通年プログラムです。

- アレンジ門松作り
- 夏のリース作り
- 松ぼっくりツリー作り
- ミニ鯉のぼり作り
- ハロウィーンオーナメント作り
- ほか多数

上記のお問い合わせ・お申込みはこちら **種差海岸インフォメーションセンター** ☎0178-51-8500 FAX.0178-51-8501

NEWS

「今日の種差海岸」をHPで配信中です。

当センターホームページにて、種差海岸の様子を定期的に動画配信中です。リアルな季節のうつろいをお楽しみください。



自然のぬくもりの中で、くつろぎ、学び、活用できる空間です。



●営業時間 9:00~17:00 ●休館日 12/29~1/1
※冬季(12~3月)は16:00閉館 ※1/2、1/3は10:00~15:00

●アクセス
JR八戸線種差海岸駅より徒歩で約3分
八戸・久慈自動車道種差海岸階上ICより車で約10分
JR八戸線鮫駅より種差海岸遊覧バスワンコインバス「うみねこ号」で約30分
フェリー乗り場より車で約30分

●エリアマップ
種差海岸インフォメーションセンター
種差海岸休憩所

種差海岸インフォメーションセンター ☎0178-51-8500 FAX.0178-51-8501 <http://taneshashi.info> ☎031-0841 青森県八戸市大字鮫町字種久保14-167



TANECHAN

種差海岸インフォメーションチャンネル

2020 ANNUAL ISSUE

いごなう / 伝え育む / つながる / 生み出す

みちのく潮風トレイル 新しい歩き方。

鮫・種差・階上 民俗トレイル をゆく

Same, Taneshashi, Hashikami,
We go Folklore Trail.

COLUMN

年に一度、地元民が盛り上がる「まつり」もあります。
～さめ浜まつり/種差海岸観光まつり/臥牛山まつり

三陸復興国立公園区域

みちのく潮風トレイル

●営業時間 9:00~17:00 ●休館日 12/29~1/1
※冬季(12~3月)は16:00閉館 ※1/2、1/3は10:00~15:00

●アクセス
JR八戸線種差海岸駅より徒歩で約3分
八戸・久慈自動車道種差海岸階上ICより車で約10分
JR八戸線鮫駅より種差海岸遊覧バスワンコインバス「うみねこ号」で約30分
フェリー乗り場より車で約30分

●エリアマップ
種差海岸インフォメーションセンター
種差海岸休憩所

●南浜公民館 種差天然芝生地

〈みちのく潮風トレイルとは〉
青森県八戸市から福島県相馬市まで、太平洋沿岸をつなぐ、全長約1,000kmの長距離自然歩道。2019年6月9日に全線開通。

〈三陸復興国立公園とは〉
三陸地域の復興と地域振興に貢献するために平成25年5月に創設された。八戸市蕪島から金華山三陸国立公園(H27.3.31編入)までの国立公園。

種差海岸インフォメーションセンターで
国立公園 種差・階上地域やみちのく潮風トレイルの
風土を感じる「体験プログラム」に
参加してみませんか?
◎詳しくはウラ表紙をご覧ください。

をゆく 民俗トレイル

三陸復興国立公園内の鮫・種差・階上エリアには、古くから言い伝えられてきた民話やこの地に魅了された文人墨客の足跡に溢れています。みちのく潮風トレイルの遺すがら、民俗文化を感じてください。

鮫 種差 階上

SAME
TANESASHI
HASHIKAMI
WE GO
FOLKLORE
TRAIL.



詩人村次郎と 旅館石田屋

「割烹 旅館 石田屋」は明治の初め、初代石田多吉によって創業され、二代目の長谷川村次郎は鮫海水浴場を開くなど鮫島や種差海岸を全国に宣伝。漁師料理であった「いちご煮」を初めて膳に並べ、名物料理に育てたと言われています。詩人、四代目石田実は、祖父から取ったペンネーム「村次郎」として多くの作品を発表。多くの文人墨客を迎え、種差海岸を案内し、その素晴らしさを紹介しました。



その昔、南部藩のお殿様が鮫地区を視察に訪れた際に、この湧水を沸かしてお茶を飲んだ、という言い伝えがあります。

殿様の湧水 御前水



燕島の弁天様

永仁4年(1269年)に江戸島弁才天を勧進したのがはじまり。祭神は市寸嶋比売命、多紀理毘売命、多岐都比売命の宗像三女神で「燕島の弁天様」として信仰を集めてきました。弁財天は高野繁盛や子授けにご利益があるとされていますが、地元では漁業の守り神として根付いています。



燕島は離島だった

江戸時代には八戸藩唯一の貿易港、漁港として藩の経済を支えてきた燕島。1919年には橋が架けられ、それまでは完全な離島で渡船に頼っていたものが自由に往来できるようになりました。1942年に埋め立てられ陸続きとなり、現在は休憩所や物産施設も整備され、みちのく潮風トレイルの出発・最終ポイントとなっています。



鮫

SAME



墓前で舞う 鮫神楽

県無形民俗文化財。山伏神楽のほかに歌舞伎などを組み合わせて神楽化した組舞があります。盆には浮木寺の境内で迎え火をたき、先祖供養の歌に合わせ、獅子が身体を震わせ墓前で舞います。神仏混交の芸態で珍しく、神楽の古式を守りながら新しい組舞を考案し、民衆の娯楽として演じられてきました。



吉田初三郎 種差を全国に広めた



全国各地1800種以上に及び観光案内地図を作成。「初三郎式鳥瞰図」と呼ばれました。京都生まれで、昭和7年に訪れた際に種差海岸に惚れ込み移住。名勝地指定のために奔走し、12年に名勝指定を受けました。昭和10年、種差駅近くにアトリエ兼別荘「潮観荘」を構えると、各界との交友が広い初三郎さんを尋ね、高松宮殿下、鹿子木孟郎、歌人の土屋文明、作家の巖谷小波など多くの文人墨客が種差に訪れました。潮観荘は1953年に火災で消失しました。

種差

TANESASHI



宇山博明は 種差に惚れ込んだ



(1913~1997)青森市出身の造形家。戦時中、激戦地ビルマで貫通銃創を受け、ボロボロの体で八戸種差に疎開。種差の自然に心身を癒された宇山は、大空を子どもに返したいとの願いから、健康な子どもの象徴として南部風絵・金太郎5態を創作。



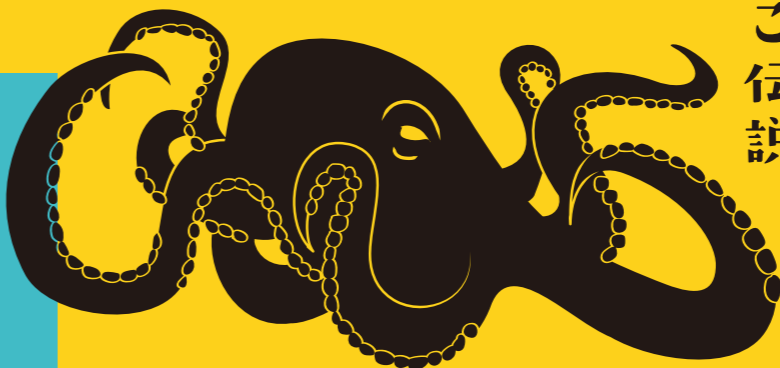
階上に伝わる 大蛇伝説

大昔、階上町大渡にあった沼に住む大蛇が、村人たちが次々と沼に引き込まれたという事件が相次ぎました。村人たちは大蛇退治に鹿笛でおびき出し、一斉に銃を放つ。大蛇がのたうちまわって死んだ場所に「大蛇」という地名が付けられたとさ...。ほかにも「道仏」、「耳ヶ吠」、「角柄折」、「石鉢」など大蛇にまつわる地名が階上町にはたくさんあります。



泊川神社の 大だこ伝説

昔、この一帯の松林の中に大きな沼があった。放牧した牛や馬、見回りの人がその沼に住む「大だこ」に引っ張られて溺死する出来事があった。そこで地域の人たちは大だこのいたずらを鎮めようと神を祀ることにし、岩の上に泊川神社を建立し、「たこ神社」と呼んだ。たこは目が鋭く丈夫なことから眼病にご利益があるといわれている。



臥牛山まつり

会場ではラム肉の焼き肉コーナーやステージイベント等が催され、県南のシンボル階上岳の雄大な自然を楽しめる。毎年6月上旬開催。



種差海岸 観光まつり

1962年7月、八戸市観光協会の事業として第1回開催。ステージイベントや海産物即売会など多彩な催し物で人気。毎年7月第2日曜開催。



階上岳と 寺下観音

標高739.6m。北上山地の北端にあり、牛が寝そべっているような姿から「臥牛山」という愛称もあります。花崗閃緑岩を中心とした火成岩からなり、山頂には岳大明神、北東山麓には寺下観音があり、古来より信仰の山としても知られています。寺下観音は、糠部三十三観音の一番札所となっており、階上町のルーツであるとともに八戸地方の信仰の拠点にもなっています。ここから日向山にかけて中興の祖・津要和尚の普及活動を伝える灯明堂跡などもあります。



階上

HASHIKAMI



年に一度、地元民が盛り上がる「まつり」もあります。

2020年は新型コロナウイルス感染症対策のため中止。

さめ浜まつり

鮫地区の文化や伝統の継承を目的に、鮫青年会山車組の山車、囃獅子、鮫虎舞、燕島神社の神輿海上遊御などの出し物がある。毎年7月下旬開催。



鮫の 浜小屋群



漁師さんの休憩場所としても使われる浜小屋が連なるエリア。古くから変わらない漁師の生活を感じることができます。



浮木寺の 八手弁財天



昔、8人の子ども連れれた女神様が燕島に流れ着き、その後、豆つぶみにたいに小さいが力持ちで賢い男が現れ父親代わりに。仲睦まじく子どもを育て上げ、鮫の浮木寺に奉られています。 ※出展「ふるさとのおまつり〜八戸地方の民話集〜」

くじり石になった 鮫浦太郎

昔、八戸に鮫浦太郎という名の大きなくじらがいて、姿を見せなくなり心配していたところ、じい様の夢枕に鮫浦太郎が現れて「毎年海底の小石を飲み、それが33個溜まると浜の神様になれる」と言う鮫の掟があり、今年最後の小石を飲み込んだ所で漁師たちに話を撃ち込まれてしまい、もう皆の待つ鮫浦に戻れない!と...。目覚めたじい様が浜辺に出ると、背に銚子を突き刺した鮫浦太郎の骸がありました。人々は嘆き悲しみ、供養しようとして手を掛けた途端、骸は石へと変わった。この浜を離れたくないのだと悟った人々はこの石を「鯨石」と名付け、浜の守り神として今でも西宮神社に大切に保存されています。 ※出展「ふるさとのおまつり〜八戸地方の民話集〜」